

平成 28 年度第 2 回高知県医療関連感染対策地域支援ネットワーク会議の要旨

日 時：平成 28 年 11 月 7 日（月）18：30～20：20

場 所：高知共済会館 4 階 浜木綿

出席者：委員 10 名

議 事

(1) 高知県医療関連感染対策相談対応事業について

ア 高知県医療関連感染対策相談対応事業に係る実地支援について

武内委員、有瀬委員、川村委員と I C N の岡本さんが 10 月に実地支援を行い、武内委員より、「ラウンドの結果、これまでの結果、想定される原因、今後すべきことを報告書でまとめた。MR S A なので一番大事なのは手指衛生で、もう一つは患者のゾーニングが改善すべき点。」と報告があった。

結 論

- 第三者からの支援は効果的。
- 実地支援に行くことで自分の病院の取り組みを振り返ることができた。
- アウトブレイクは起こりうることなので、アウトブレイク時には委員、I C N の支援をお願いしたい。

イ 高知県医療関連感染対策相談対応事業パンフレット増刷について

事務局より、パンフレットの活用状況と、残り部数が少なくなり増刷をしたいとの説明があり、パンフレットの修正内容について協議した。

結 論

- I C N のメンバーが代わっているので、写真を差し替える。
- 「医療関連感染」と「医療関連感染対策」が混在しているので、「医療関連感染対策」に統一する。
- 追加で修正が必要な個所に気付いた場合は、メーリングリストで連絡する。

(2) 医事薬務課ホームページの掲載内容について

ア 医療関連感染対策 Q & A について

事務局より、医事薬務課ホームページの状況と今後の予定、医療関連感染対策 Q & A の進捗状況についての説明があり協議の後、事務局より平成 27 年度第 3 回の高知県 I C N ネットワークの会で、医療関連感染対策 Q & A をホームページに掲載する際に、相談元の了解を得る必要がある場合に、医事薬務課長と高知県医療関連感染対策地域支援ネットワーク会議会長名で文書が

あると良いと意見があり、事務局が作成した文書の案について説明があった。

結 論

- 作成予定の「医療関連感染対策」のバナーは、目立つように色を工夫する。
- 高知県医療関連感染対策相談対応事業パンフレットで使用したカツオ人間のキャラクターをホームページに使用して良いか、川村委員が確認する。
- 医療関連感染対策Q&Aをホームページに掲載する際に使用する、医事薬務課長と高知県医療関連対策地域支援ネットワーク会議会長名の文書案について了承。

イ 院内感染対策通知文書について

事務局より、医事薬務課ホームページに平成26年度からの院内感染対策に関する厚生労働省等からの通知を掲載し、健康対策課の感染症法関係の通知のページにリンクさせたこと、今後、高知県のトップページから入れる「医療・救急情報」に「医療関連感染対策」の項目を追加すること等について説明があった。

結 論

- 「医療関連感染対策」と「院内感染対策」が混在しているので、「医療関連感染対策」に統一する。
- 健康対策課からも医事薬務課に入れるようにする。
- 高知県医療関連感染対策地域支援ネットワーク会議のメーリングリストを活用し、ホームページの改善を進めていく。

(3) エリアネットワーク活動について

事務局より、「全てのエリアで検討会等が行われ、具体的な取り組みが進んでいるエリアが広がった。中央西と須崎エリアについては、検討会後の取り組みが進むよう医事薬務課から働きかける。」と説明があった。

①安芸エリア

福永委員より、「病院と診療所を対象とした院内感染対策に係る地域ネットワークに関するアンケートを実施。病院は感染対策が概ね行われているとの認識だが、診療所の一部は十分できていないと認識されていた。1月頃に研修会を実施する予定で、院内感染対策とICNとつながることを目的に考えている。」と報告があった。

②中央東エリア

武内委員より、「検討会で研修会とラウンドを行うことに決め、研修会は対象者を病床ありと病床なしの医療機関に分けて開催することとした。研修会の前半は一番大事な手指衛生と環境整備について有瀬委員が講演し、各病院で使えるチェックシートの使い方も伝え、後半は個別相談を3職種で受け、ICDには「医師の抗生物質の使い方が悪いが、どうしたら良いか。」、ICNには手技について、臨床検査技師には集計についての相談等があった。ラウンドについ

ては状況をみながら行いたい。」と報告があった。

③高知市エリア

豊田副所長より、「検討会を7月に行い、10月に研修会の打ち合わせを行った。11月の研修会は診療所を対象に、はじめに医療関連感染対策地域支援ネットワーク事業の経過と重点項目の紹介の後、ICN8名の顔と名前を知ってもらうことも目的とし、院内感染対策の質問についてICNの方々の講演後、ICDの方々にも入ってもらいグループワークで具体的な話を行った。研修後のアンケートでも内容が好評で、ICNからも特別養護老人ホームの課題を具体的に聞いて参考になった等の感想があった。第2回の検討会で今後どのように活動を展開するか議論する予定。」と報告があり、各委員からもグループワークが有効だったと報告があった。北村会長より、「高知市でたくさん出た質問をQ&Aでホームページに載せられたらいいと思う。」と提案があった。

④幡多エリア

川村委員より、「10月に老人保健施設の職員を対象に研修を行い、多岐に渡る職種の参加があった。手指衛生に絞って1時間かけてゆっくり話をした。アンケートで今後も希望する声があり、保健所や合同カンファレンスでも相談しながら、新たな対応を考えていきたい。」と報告があった。

(4) 高知県医療関連感染対策研修会について

ア 第1回高知県医療関連感染対策研修会について

事務局より、「病院管理者と院内感染対策委員会委員長を対象に45名の参加があり、全員からアンケートの回答を得られ、継続開催の希望があるなど好評だった。高知県医療関連感染対策地域支援ネットワーク事業や今後の研修会の希望について回答が得られた。」と報告があった。

イ 第2回高知県医療関連感染対策研修会について

事務局より、「第1回の会議でテーマを抗菌薬の適正使用とし、対象は病院・診療所の医師とする意見をいただいたが、講師について意見を伺いたい。」と説明があった。

<委員からの意見>

- ①抗菌薬の話は中央東エリアの個別相談や安芸の合同カンファレンスでも出ており、タイムリーな内容で悩んでいる方は多いと思う。
- ②診療所を開業している佐野先生は、日常の診療の中で抗菌薬、耐性菌、感染対策に関心を持って、感染症ケースカンファレンスにも参加されている。
- ③診療所では3種類位の抗菌薬しか使っていないことが多い。開業医にも無理のない分かりやすい抗菌薬の話をしてもらうのはどうか。
- ④年1回ラウンドに行っている梶原病院は、行く度に感染対策が改善されている。去年、国保病院連合会の研究会で臨床検査技師の神明さんが報告し、話を聞いた病院は刺激を受けた。

中小規模病院がどう改善してきたか、具体的に理解してもらえと思う。

結 論

- 佐野先生に開業医にも分かりやすい抗菌薬の適正使用について、梶原病院の神明さんに梶原病院の感染対策の取り組みについての講演を事務局より依頼する。

(5) 高知県病院薬剤師会、高知県臨床検査技師会の高知県医療関連感染対策地域支援ネットワーク会議への参加について

事務局より、「9月に高知県病院薬剤師会、高知県臨床検査技師会の会長に会い、高知県医療関連感染対策地域支援ネットワーク会議の取り組みや目的について説明し、今後、委員の1人として代表の方に参加してもらい、専門の立場からお話いただくことは可能か伺ったところ、どちらの会長からも来年度から参加の了解を得られた。それぞれの代表にどのような観点で会議に関わっていただくか事前にアドバイスをいただき、次回の会議で結果を報告し、次に進めたいと考えている。」と報告があった。

<委員からの質問・意見等>

- ①会議に参加してもらうことで、高知県全体のデータを出していただくことが可能ではないか。
- ②Q：高知県感染対策・サーベイランス研究会は高知県病院薬剤師会、高知県臨床検査技師会に位置付けられているか？
→A：(事務局)今年度初めに研究会に話を伺った時は発足して間もなく、薬剤師会、臨床検査技師会の正式な部会ではないが、お互いの状況を知っている様子だった。当初は研究会に会議に参加していただくことを考えていたが、会議で薬剤師会、臨床検査技師会の関わりが大事ではと意見をいただき、今回それぞれの会に相談した。病院薬剤師会から委員の適任者として紹介いただいた方は研究会でも活躍しているので、委員になっていただくことで研究会との関係もできると考えている。
- ③次回の会議にオブザーバーとして薬剤師会、臨床検査技師会の代表に参加していただいて、今後どのように進めていくか直接お話しいただいた方がいい。
- ④感染対策に4職種は必須。

結 論

- 次回の会議にオブザーバーとして薬剤師会、臨床検査技師会の代表に参加していただいて、どのような取り組みをしているか、今後どのような形で協力いただくことが可能か協議する。

(6) 平成29年度高知県医療関連感染対策地域支援ネットワーク事業予算について

事務局より、「今年度はエリアネットワーク活動の取り組みが進み、相談対応もルールに基づ

き実施ができるなど、今まで検討してきたことが実践できており、平成 29 年度以降もエリアネットワーク活動の継続と充実を図りたいと考えている。また、病院薬剤師会及び臨床検査技師会との連携でネットワーク事業をさらに充実させたいと考えている。予算の増額は大変厳しい状況だが、最低これだけは必要ということで予算要求する予定。」と説明があった。

事務連絡

①高知赤十字病院西山副院長の熊本の震災対応活動報告の高知新聞記事について

- ・会長より、「避難所の保健衛生の課題が書かれており、震災時の感染対策は重要で来年度以降も会議のテーマの一つとして欲しい。来年度の研修会のテーマとしてはどうか。」と提案があった。
- ・事務局より、「テーマとすることは可能と思うが、災害対策は医事薬務課ではないところが担当している。災害対策は県全体で進めているので、関連部署に相談し、前向きに考えたい。」と説明があった。
- ・川村委員より、「事前に避難所設営のルールをきちんとしていないと感染対策はできない。熊本、東日本の震災のスタッフの多職種の方に感染対策について話していただきたい。」と意見があった。
- ・福永委員より、「災害対策本部会議に出席予定。避難所の運営、感染対策もまとめなければいけないと思っている。避難所の運営マニュアルは市町村が作成するが、できているところは少ないので、作成を勧めている。医事薬務課が関わるのは医療機関だが、保健所は全てに関わることが可能。」と説明があった。

②感染管理、感染症に関する講演会について

武内委員より、第 14・15 回高知県感染症ケースカンファレンス、第 33 回高知臨床推論ケースカンファレンス、第 34 回高知県院内感染対策研究会の案内があった。

③第 3 回医療関連感染対策地域支援ネットワーク会議の日程調整はメーリングリストで行う。